

- 1 派遣期日 平成28年11月18日（金）
- 2 研修先 学校名 横浜市立西寺尾小学校
所在地 横浜市神奈川区西寺尾 2-5-1

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nishiteraol/>

3 研修内容

(1) 研究テーマについて

横浜市立西寺尾小学校は、平成25年度より、図画工作科を4年間重点研究として取り組んできた。研究テーマにある「感性豊かに生きる」子どもの姿とは、自分の感覚を十分に働かせ、美しさや面白さを主体的に感じ取ったり表現したりすることを繰り返している姿だと捉え、児童が「感じる・つくる・考える」活動を主体的に行う授業を求めて研究に取り組んできた。

(2) 研究内容

研究テーマを達成するための手立てとして、学年ごとにブロックテーマを設定した。発達段階によって、児童の思いや考え方、感じ方には違いがある。発達段階に適した学習活動を行うことで、児童の主体的な活動と感性を豊かに働かせることができるようになった。

低学年「思いのままにあらわすことを楽しむ子」

中学年「思いを工夫してあらわすことを楽しむ子」

高学年「思いを効果的にあらわすことを楽しむ子」

特別支援学級「かかわり合い、
思いをあらわすことを楽しむ子」



(3) 研究の視点と成果

研究テーマに迫るために、児童の実態を的確に捉え、どのような資質・能力を育てるのかを明確にし、指導と評価の工夫を考えることが必要であると考え、3つの研究視点を設けた。

この視点のもと、研究を進める中で教師の指導や工夫が行き過ぎ、児童自身が考え工夫する機会が奪われてしまうことがあった。そこで工夫とは何かを考え直し、指導と評価を「引き算」するようにした。「児童が題材を通して働かせる資質・能力」にとって何が必要な指導や評価であるか吟味し、全体に行う必要がないものは省いた。必要な児童に対してのみ個別に指導することで、生き生きと表現活動を追求する児童の姿が見られるようになった。

① 「育てたい力を明確にした授業実践」

学習の積み重ね（連続性）を意識して指導計画を立てることで、各題材の目標がより明確になる。そこで、「学習の主題」ごとの年間指導計画を作成し、実践した。児童の実態に合わせた適切な指導と評価ができるようになり、他の題材との関連性を考えてそれぞれの題材をより深く考えることもできた。

②「学習活動に即した評価規準の設定」

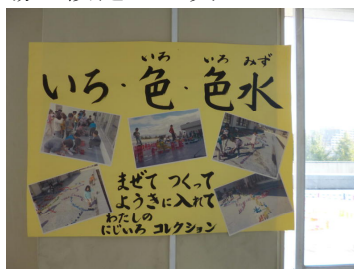
児童に寄り添った指導と評価を行うために、学習活動に即した評価規準を設定する。この規準を基に、学習状況を判断した根拠や指導の手立て等を工夫し、指導と評価の一体化を図った。このことによって、児童の実態を捉えやすくなり、個別の指導と評価を行いやすくなった。

③「表現主題を追求したくなる指導と評価の工夫」

題材の目標や評価規準に合わせて、指導と評価の方法を選択することが大切である。その方法が有効かどうか迷ったときは、常に題材の目標に立ち返ることが必要である。

表現の主題をもつ指導と評価の工夫

- 出あいの工夫（題材・題材名、材料用具との効果的な出あい、表現方法との出あい）
- 本校の児童の実態に合った魅力的な題材開発
- 場の設定の工夫

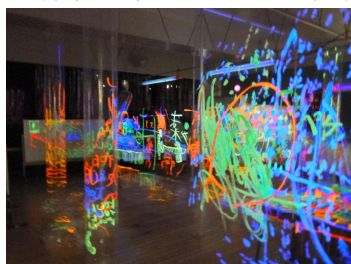


表現の主題を追求する指導と評価の工夫

- 目的意識・相手意識がもてる題材展開
- 個に応じた指導の手立ての工夫
- 題材表示・活動のめあて表示・材料用具の紹介の仕方の工夫（タイミング・量）

主体的な学び合いを促す指導と評価の工夫

- 自分や友達の作品をみる時間の設定
- 材料や用具の保管場所の工夫
- 気付きや発見が友達とつながり合うような活動の展開計画



4 感想

「今日見た題材をそのままやってもうまいいきません」という言葉が印象に残っている。児童が生き生きと活動する姿を見て、自分もやりたいと思う授業があった中での言葉だった。公開授業を行った西寺尾小学校は4年間研究を続けてきており、その成果を本時の1時間に凝縮させている。児童の実態に合わせて考え抜いたものを、ただ模倣してもうまいいかないのは当然だと思う。また、指導と評価の「引き算」の考え方も印象深かった。教えすぎると模倣ばかりになり、自由すぎるとねらいからそれてしまう。このような授業の悩みの解答を教えてもらったと思う。ただ、実践するには児童の姿を日々見つめ、教材研究を十分にしなければ「引き算」の加減はできないので、実践を通して自分で身につけたいと思う。

公開授業から、自分で考え工夫しながら実践を積み重ねることが大切だと気付いた。今回学んだことをスタートとして、児童が生き生きと活動する授業を考えていきたい。